

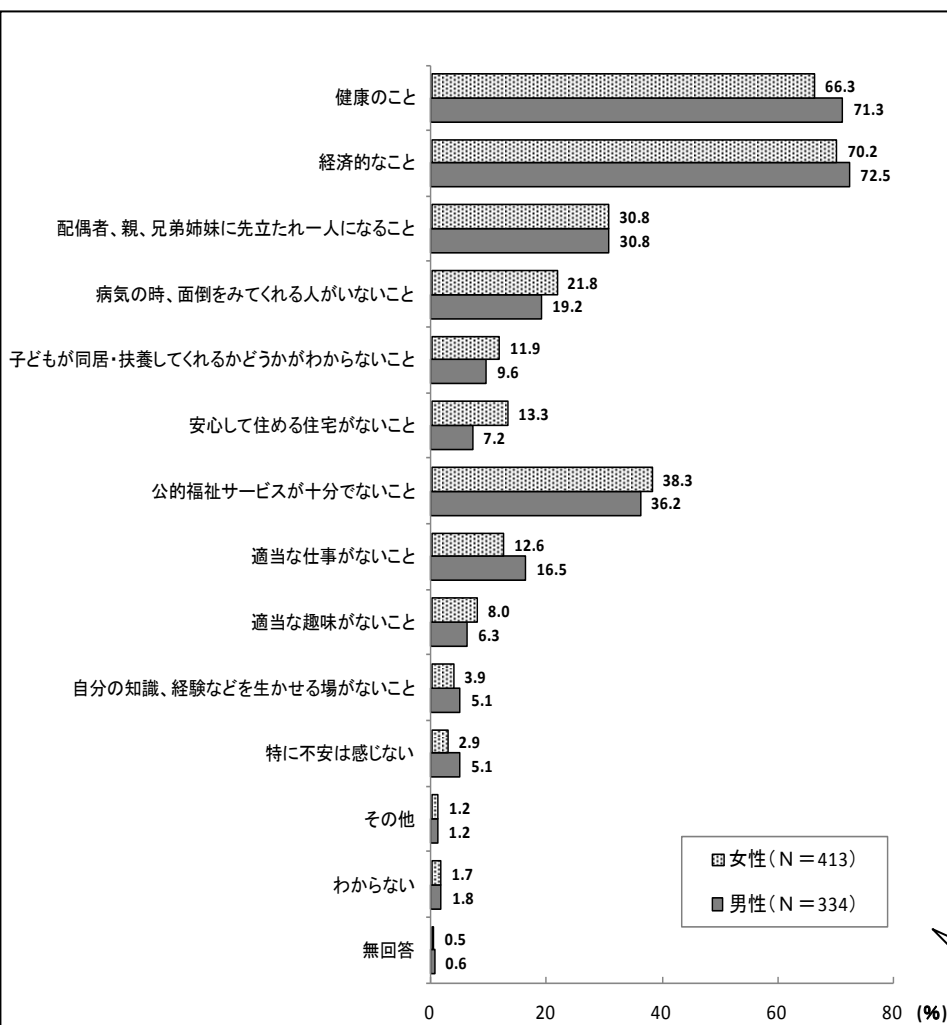


男女平等に関する市民意識・実態調査の報告

平成 24 年 10 月に実施した標記調査につきまして、調査項目ごとに結果概要をお知らせします。
今回は、「高齢社会・介護について」です。

【高齢社会・介護について】

- 老後の生活にどのような不安を感じているか聞いたところ、女性は「健康のこと」34.8%、「経済的なこと」24.8%、男性は「経済的なこと」25.6%、「健康のこと」25.2%の順に高くなっています。次いで、男女とも「公的福祉サービスが十分でないこと」が高い割合となっています。年代別にみると、「健康のこと」と回答したのは男女ともに50代以上の人が多く、「経済的なこと」と回答したのは比較的若い年代に多くなっています。
- 自身や家族の介護が必要になったときどうしたいかという問いには、男女とも「家庭で主にホームヘルパーや各種保健福祉サービスを受け、家族の負担をできるだけ軽くしたい」が最も高く、次いで「家庭で主に家族の介護を受け、足りないところをホームヘルパーや各種保健福祉サービスで補いたい」、「老人施設等に入りたい」の順になっています。



- 自身の介護が必要になったとき主に誰が介護するか聞いたところ、女性の46.2%、男性の64.4%が「配偶者」と答え、最も高い割合となっています。
- 現在の高齢社会にどのような対策が必要だと思うか聞いたところ、女性の27.0%、男性の29.2%が「介護・医療保障の充実」と回答し最も高い割合となっています。次いで、「公的年金の充実」と答えた人が女性26.8%、男性28.3%と高くなっています。前回の調査では、「公的年金の充実」「介護・医療保障の充実」の順に高い割合を示していました。
※報告書を希望される方は市役所市民協働推進課(Tel 31-4504)まで

問 あなたご自身の老後の生活に関して不安を感じることはありますか(複数回答)



講演会・セミナーにご参加ください

DV防止講演会

「傷つけあう家族～DV・虐待の連鎖を断ち切るために～」

- ・日 時 : 10月21日(火) 午前10時～正午
- ・会 場 : 交流プラザさいわい 1階 多目的ホール
- ・講 師 : NPO法人 WANA関西 代表理事 藤木美奈子氏
- ・定 員 : 100人

※10月14日(火) (託児の必要な方は10日(金))までに電話でお申し込みください。

- ・申 込 先 : 市役所子ども支援課 (TEL31-4204)、市民協働推進課 (TEL31-4505)

男女平等参画セミナー「定年後は地域デビューを！」



社会人・職業人として培ってきた豊富な経験をこれからは「まちづくり」に活かすことを考えてもらうためのセミナーです。

定年前後の方、特に男性には新たな生きがいづくり新たなライフスタイルのヒントになるセミナーです。

- ・日 時 : 11月8日(土) 午後1時～3時30分
- ・会 場 : 観光国際交流センター 2階 視聴覚室
- ・講 師 : 広岡 守穂氏 (中央大学法学部教授)
- ・申 込 : 10月31日(金)までに電話、ファクス、メールでお申し込みください。
- ・申 込 先 : 市役所市民協働推進課 (〒085-8505 黒金町 7-5 TEL31-4504 FAX23-5220
メ-ル shi-shiminkyoudou@city.kushiro.lg.jp)



(仮称)男女平等参画センター開設に向けて 勉強会と意見交換会を開催しました

意見交換会(1回目は勉強会を兼ねる)の開催結果の概要をお知らせします。今後、釧路市議会へのご報告やパブリックコメント等を経て、男女を問わず、すべての市民が気軽に利用できる、そんな施設となるよう、検討してまいります。



【第1回意見交換会】

- 7月15日(火)午後1時30分～(勉強会に引き続き意見交換会を開催) / 48名参加(勉強会は66名)
会場: まなぼっと幣舞705・706号室
主な意見: 開設から当面は直営を要望、指定管理とした場合は指定管理者の募集対象は市内団体等とすることを要望 など

指定管理者制度とは: 住民の福祉を増進する目的をもってその利用に供するための施設である公の施設について、民間事業者等が有するノウハウを活用することにより、住民サービスの質の向上を図っていくことで、施設の設置の目的を効果的に達成するため、平成15年9月に設けられた制度です。(平成22年総務省報道資料から抜粋)

【第2回意見交換会】

- 8月25日(月)午後1時30分～ / 39名参加 会場: 観光国際交流センター3階研修室
主な意見: 調査研究機能も必要ではないか、相談員は常設(複数)配置要望、直営・指定管理に関わらず業務内容をしっかり考えて欲しい、市民活動センターわっととの連携・協働のあり方を考えて欲しい など